

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立各務原西高等学校

学校番号

12

I 令和4年度 自己評価

教務

1 本年度の当初に立てた目標

- (1) 基礎学力の定着と応用する力の育成
教育課程を通して、基礎・基本となる知識・技能を身につけさせるとともに、その力を応用できる思考力・表現力・判断力を育成する。
- (2) 探究する姿勢の涵養
様々な事柄に興味を持ち、より深く探究しようとする姿勢を涵養する。
- (3) 学習環境の確立
授業を通して、マナーや物事に取り組む姿勢を身につけさせ、次のステップで活躍できる基礎を身につける。
- (4) 教育課程の編成
単位制高校としての在り方について検討を深め、新学習指導要領の主旨を実現する教育課程を編成する。
- (5) 業務量の低減
教員の働き方を見直し、業務量の低減を図る。

2 目標に対する達成度と評価

・達成度（目標が複数ある場合は、分けて評価ください）

- | | | | | | | | | |
|----------|-------|---|-------|---|-------|---|-------|------|
| (1) 高い 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 低い |
| (2) 高い 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 低い |
| (3) 高い 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 低い |
| (4) 高い 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 低い |
| (5) 高い 5 | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | ② | ----- | 1 低い |

・評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

評価すべきこと

- (1) 授業配信のための回線が7回線から4回線となったが、配信方法を工夫して授業を配信することができた。特に、2年次と3年次においては文系と理系のそれぞれのクラスから配信することができた。
- (2) Classiの活用を進め、欠席者への授業配信用の教材配付・授業指示だけでなく、通常授業でも課題提出などに活用した。ICTを取り入れた授業を積極的に推進することが出来た。
- (3) 新学習指導要領に伴い、1年次で行うことになった観点別学習状況評価の基準作りを進め実施することができた。
- (4) 昨年度の「生徒及び保護者を対象とするアンケート」で総合的な探究の時間について、20%の生徒が意義を感じにくい状況だったが、今年度は半減することができた。

改善すべきこと

- (1) 「観点別学習状況評価」の基準作りを進め実施することができたが、正しく生徒の状況とらえて学力の向上につながっているかを各教科で検討し、より良い評価方法に見直しをしていくことが課題となっている。

(2) 担当している業務について、重要度・緊急度などを適切に判断して、業務量の低減を進めていくことがより必要となっている。

生徒指導

1 本年度の当初に立てた目標

- (1) 次代を担う社会の一員となるために必要な倫理観と規範意識を身につけ、主体的な判断や責任ある行動ができる生徒を育成する。
- (2) 安全で安心な学校生活を送れるよう全職員で組織的な生徒指導を目指す。

2 目標に対する達成度と評価

・達成度（目標が複数ある場合は、分けて評価ください）

- | | | | | | | | | | |
|--------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|------|
| (1) 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | ③ | ----- | 2 | ----- | 1 低い |
| (2) 高い | 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 低い |

・評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

評価すべきこと

- (1) 昨年度の課題となった「教員間の生徒情報共有」について、今年度は些細な事案でもHRTと部顧問に伝わるように心掛けた。その成果か今年度は生徒間の人間関係トラブルによる転学はなくなった（把握できるなかでは）。
- (2) MSリーダーズに部活動単位で加入してもらったことで、人数が多くなりあいさつ運動や清掃活動を例年以上に活発に行うことができた。また、全校生徒にあいさつの励行や落ち着いた学校生活を送る雰囲気づくりを促すことができた。
- (3) 登校指導や遅刻指導で生徒への声掛けや生徒観察を行い、予防的指導を積極的に行うことができた。
- (4) スペシャリストサポート事業を積極的に活用し、生徒や保護者の相談に応じることができた。

改善すべきこと

- (1) 不登校生徒、転学する生徒を減らすこと。学習のつまずきや人間関係を構築できないことで体調を崩して欠席し、前期期末考査前後に進路を変更する生徒が毎年数名出る。本校の学習内容や環境が合わない生徒はやむを得ないが、入学してきた生徒は出来るだけ本校を卒業できるように全職員で支援して行きたい。
- (2) 「校則の見直し」や「ジェンダーレス」が社会的に注目されている中で、価値観の多様化により学校での指導が難しくなっている。今まで以上に教員間の共通理解が必要である。
- (3) コロナ禍になり、安易な欠席や遅刻者が増加したままである。体調面を考慮して寄り添うことも必要であるが、状況に応じて「ダメなものはダメ」という毅然とした姿勢で生徒に関わって行く必要がある。
- (4) MSリーダーズの活動をさらに活発化し、活動内容や運営の立案等、委員長を中心とした主体的な活動にして行きたい。

1 本年度の当初に立てた目標

- (1) 安易な進路決定に流れないように進路意識の高揚を図る。
- (2) 適切な進路情報を幅広く提供し、主体的な進路探究を促す。
- (3) 自ら学ぶ意欲を引き出し、自律的な学習習慣を身につけさせる。
- (4) 個々の志望に応じたきめ細かな指導を充実させ、大学入試に対応できる学力を養成する。

2 目標に対する達成度と評価

・達成度（目標が複数ある場合は、分けて評価ください）

- | | | | | | | | | | | |
|--------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|----|
| (1) 高い | 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (2) 高い | 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (3) 高い | 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (4) 高い | 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |

・評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

評価すべきこと

- (1) 年次ごとに外部講師による進路講演会を実施し、進路目標達成のために必要な力や心構えなどを聞くことで、進路意識の向上につなげることができた。
また、希望者を対象として「教職員ガイダンス」や「医療体験カードゲーム」を実施することで、より具体的な職業観の育成につながった。
- (2) 「進路だより」を毎月発行し、その時期に必要な情報を伝えることができた。また、「進路の手引き」に先輩の『合格体験記』を記載し、最後まで諦めずに学習することの大切さを伝えることができた。
- (3) 放課後の学習室解放により、自律的に学習できる環境を整え、自主的に学習する生徒の支援ができた。
- (4) 土曜補習や夏季補習においてハイレベルな講座を開講することで、大学入試に対応できる力をつけることができた。
また、教員向けの「小論文指導の研修会」「面接指導研修会」を実施し、教員のスキルを高めることができ、小論文・面接指導を全校体制で実施することで、個々の受験校に合わせたきめ細かで濃密な指導ができ、成果として表れている。

改善すべきこと

- (1) 3年間を見通したキャリア教育の在り方を考え、より効果のある進路ガイダンスや進路講和・進路探究の内容を考える。
- (2) 各年次において必要とする情報を、年次毎にタイムリーに発信する。
- (3) 進路研究をさらに充実させ、進路目標の具現化に向け何が必要なのかの意識づけを図り、自律的な学習へと繋げる。
- (4) 学校推薦型選抜や総合型選抜に対して、今の時代に適した学校としての指導の在り方を再考し、職員の共通理解を図る。また、新教育課程の入試となる令和7年度入試に向けての研究・準備を進め、職員に徹底していく必要がある。

1 本年度の当初に立てた目標

- (1) 生徒会活動の充実
- (2) ホームルーム活動の充実
- (3) 学校行事の充実
- (4) 部活動の充実
- (5) 各種交流活動・ボランティア活動の充実
- (6) リーダー性や自主性の発揮

2 目標に対する達成度と評価

・達成度（目標が複数ある場合は、分けて評価ください）

- | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|----|
| (1) | 高い | 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (2) | 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | ③ | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (3) | 高い | 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (4) | 高い | 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (5) | 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | ③ | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (6) | 高い | ⑤ | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |

・評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

評価すべきこと

- (1) 執行部と各委員会および議会とが連携し、コロナ禍での青桜祭などの実施に向けて取り組むことができた。
- (2) 前期は、文化委員が中心となり「文化祭クラス企画」について5回の統一LHRを行い、後期はHR委員が中心となり、生徒会が選んだテーマで「統一LHR」を行った。
- (3) 文化祭や体育祭（球技大会）に向けて、生徒主体で運営できるようになってきた。文化祭は、文化祭実行委員が中心となり、生徒の手で創り上げることができた。体育祭は球技大会の形であったが、これも生徒主体で行うことができた。
- (4) コロナ禍での活動体制は、まだ不便な面もあるがそれなりに定着しつつある。部顧問が互いに連携し、生徒との信頼関係を築きながら、限られた活動時間内で、熱心に指導をし、充実した活動を行った。
- (5) 昨年度に引き続き各務原特別支援学校との直接交流は出来なかったが、ひばり祭へ本校生徒の作品や活動の記録を貸し出し、交流を継続することができた。また、社会福祉協議会などと連携して行う募金活動が、生徒が自主的に行った清掃活動などで、地域社会の一員である自覚を高めることができた。
- (6) 各方面で、教員のサポートのもと、生徒がリーダーシップを発揮し主体的に活動できた。

改善すべきこと

- (1) 次年度も生徒主体の形を継続・発展できるよう、教員側のサポート体制を整える。
- (2) 文化祭・体育祭は、コロナ前の内容近づけられるよう生徒会役員と教員との話し合いを行い、早めに検討に入る。
- (3) 交流活動、ボランティア活動については、制約も多くあるが、参加した生徒の満足度の高い活動を検討し実施する必要がある。

1 本年度の当初に立てた目標

進んで奉仕する心をもって、環境整備に努めるとともに、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培い、心身ともに健康で明るく活力ある西高生の育成に努める。

- (1) 自己の健康管理に努める。
- (2) 環境の美化保全に努める。
- (3) 生命の安全に留意する。

2 目標に対する達成度と評価

・達成度（目標が複数ある場合は、分けて評価ください）

- | | | | | | | | | | | |
|--------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|----|
| (1) 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (2) 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (3) 高い | 5 | ----- | 4 | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |

・評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

評価すべきこと

- (1) 新型コロナウイルス感染症対策をこれまでと同様に①毎朝昇降口での健康チェック、手指消毒、②教室等の消毒作業、③各教室、手洗い場にアルコール及び石けん液の設置、④昼休みに換気を促す放送、⑤黙食及び昼食時の見回り、⑥使い捨て雑巾の配布、⑦CO₂測定器の設置による換気の管理を行った。
- (2) 1年次を対象に体育館にて「性教育講話」を開催した。アンケート結果から正しい知識を身につけられたなど概ね好評であった。
- (3) 女子トイレに生理用ナプキン設置を昨年同様実施した。
- (4) 毎月生徒の健康課題を踏まえた「ほけんだより」を発行し、健康への啓発を行うことができた。
- (5) 購買・生協の管理により、生徒・職員の厚生を継続できた。
- (6) 美化委員会による掃除点検やSDGsの達成につながる美化活動をポスターにより啓発するなど新たな活動を実施できた。
- (7) 命を守る訓練では、地震・火災・Jアラート・洪水を想定した訓練を実施できた。また、防災ワークを実施し、家庭での話し合う機会を設けることができた。
- (8) 1年次生対象及び職員対象の心肺蘇生法講習会を新型コロナウイルス感染症対策しながら実施できた。

改善すべきこと

- (1) 1年次生対象の心肺蘇生法講習会は8クラスを3回に分けて行っているが、3クラス合同で実施する場合にボランティア指導員の確保が難しく、2クラスずつの4回にできないかとの消防署から相談を受けているので、検討していきたい。
- (2) 桜の木の落葉掃除を夏季休業明けから開始し、より学校に貢献できる場を提供していきたい。
- (3) 命を守る訓練の反省で指摘された内容を来年度に活かしていきたい。

1 本年度の当初に立てた目標

- (1) 図書館活動の充実（読書促進・図書資料の整備・図書委員会の活発化・教科との連携強化）
- (2) 校誌『さくらぎ』の発行
- (3) 「芸術鑑賞会」の円滑な実施
- (4) ふるさと教育（地域課題探究型学習）の推進

2 目標に対する達成度と評価

・達成度（目標が複数ある場合は、分けて評価ください）

- | | | | | | | | | | | |
|--------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|----|
| (1) 高い | 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (2) 高い | 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (3) 高い | 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |
| (4) 高い | 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 | 低い |

・評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

評価すべきこと

(1) 図書館活動の充実について

ア 読書週間に合わせたイベントの他、生徒の個性あふれる「よむよむザウルス」（図書委員）・「推薦図書一覧」（全職員）の発行や展示の工夫によって、読書を促すことができた。

イ 「朝の読書」は7年目に入り、その意義・効用について共感と理解が深まった。

ウ 図書委員が主体的に活動し、「読書週間」「朝の読書」などの広報活動に積極的に取り組んだ。

エ 探究型の調べ学習で図書館を利用する授業に対して、教材となる資料を迅速に揃えてサポートすることができ、利用数も昨年度に比べ増加した。

オ 本年度も図書館主催の「教養アップ講座」を実施できた。

(2) 校誌『さくらぎ』は、見直しを重ね、「学校の記録を残す」というスタンスで印刷製本した精度の高いもの発行してきた。今年度も同様のものを発行する予定。

(3) 芸術鑑賞会は一昨年度から延期されていた「N響金管トップメンバーによるアンサンブル」を2回公演にするなどコロナ感染予防対策をして実施することができ、生徒、職員ともに、好評であった。

(4) 「ふるさと教育」は1、2年次生が総合的な探究の時間などを活用して、昨年度の実施内容を踏襲しながら年次、教務部と連携し、各講話の講師、各務原市役所の方々、年次の先生方の協力の下で実施することができた。1年次では新たにディベートの講演会を実施することができ、探究活をしてく上での力となった。また、2年次の市役所との交流は、データ等のやりとりで実施することができた。生徒たちにとって、地域社会について知る良い機会となった。

改善すべきこと

(1) 図書館を利用した探究型の学習について、関係教員との事前打合せをしっかりと行い、資料準備やレファレンスをさらに円滑に進めたい。また、教科だけでなく分掌や年次とも連絡を密にして関連資料を整備し、その展示を工夫したい。

(2) 貸出冊数を増やすための工夫を凝らし、より多くの読書体験を積ませたい。授業等での図書館活用も一層推進する。

(3) 新しい図書館システムを有効に活用できるよう他校ともより連携を図っていききたい。

(4) 「朝の読書」や「教養UP講座」は、実地方法を検討しながら、今後も行事として定着させたい。

(5) 芸術鑑賞会は今までの経緯から、外部会場に移動して行うことは難しいが、体育館でもあまり遜色がなく、生徒に満足してもらえる内容のものを選定・実施したい。また、実施の工夫もしていきたい。

(6) 「ふるさと教育（地域課題探究型学習）」は地域課題探究型学習推進事業を受け、年次・教務部と連携し実施しているが、来年度で5年目となり、今後の運営や活動について見直しを図る必要がある。

1 本年度の当初に立てた目標

1 基本方針

地域及び生徒・保護者に根ざした PTA 活動の推進を行い、学校と会員との連携を図り相互理解を深めるために活動を活発化する。また、生徒個々の自己有用感を高めるための支援を行う。

2 重点目標と取り組み

- (1) PTA 活動の充実 PTA 活動の活性化、家庭との連携重視、公正な会計の執行
- (2) 同窓会活動の振興 同窓会との連携・協力、同窓会活動への支援

2 目標に対する達成度と評価

・達成度（目標が複数ある場合は、分けて評価ください）

1 基本方針	高い	5	-----	(4)	-----	3	-----	2	-----	1	低い
2 重点目標 (1)	高い	5	-----	(4)	-----	3	-----	2	-----	1	低い
(2)	高い	5	-----	(4)	-----	3	-----	2	-----	1	低い

・評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

評価すべきこと

- (1) コロナ禍で制約のある中、PTA と学校が緊密な連携を取り、信頼関係を深めることによって、楽しく活発な PTA 活動を行っていただいた。
- (2) PTA 役員の選出において現役員が合格発表の当日に尽力し、新役員を選出している。HR 正担任の負担がかなり軽減されている。
- (3) PTA 総会は書面による表決となったが、774 票（94%）の回答があり、非常に円滑であった。保護者へのアンケート結果は肯定的評価が高い。（下記※7月実施）
※学校は、PTA や部活動講演会等の関係団体の徴収金について、その予算や決算、経費の執行内容を詳細に公表している。（91.6%:-4.2）
- (4) 文化祭1日目に PTA くじ引き大会を実施した。PTA 役員の方々が主体的に、計画から実施まで楽しみながら積極的に取り組んでいただけた。役員の方々も和気藹々とした雰囲気の中で良い関係を築くことができている。参加券を生徒に事前に配布することで効率的な運営ができた。
- (5) PTA 研修会は、参加者29名（教員・生徒含む）と昨年と比較して増加した。保護者にとって魅力的な情報が多く、興味関心のある生徒も受講するなど参加者には好評であった。（昨年14名：207%）
- (6) 40周年記念誌の発行や懸垂幕昇降機の設置など、同窓会が中心となって創立40周年を祝う企画・運営が実施できた。

改善すべきこと

- (1) 球技大会等感染リスクが少ないものについては、保護者の参観等を認めするなど、保護者が生徒の様子が観られる機会を増やしていきたい。
- (2) 30周年から10年間のデータ管理がしっかりできていない。50周年記念誌に向けて必要なデータを管理する必要がある。

【意見・要望・評価等】

- ・授業参観について、熱心に授業を受けている。学校全体がそういう校風になっているということで素晴らしい。先生方の日々の指導の成果であると思う。また、社会人講話の中で証券会社として、金融リテラシーを高めてもらいたいということで講話をした。みんな興味を持って話を聞いており、面白かったという意見であった。まだ高校生だから必要ないのではないかとすることはなく、生徒にも一人の人間として接することが大切だと思った。
- ・学校らしさを生徒が感じられるように学校行事を工夫して行えたのは良かった。授業参観では、学び方や教え方のICT化が進んだと感じた。オンラインの授業も配信されており、コロナ渦での対応は大変であったと思うが、最低限の環境の整備も進んで結果的に良かった。学校長が明確な目標を示されており、各分掌がそれぞれ評価・課題を示されており、今後の課題について改善の努力をしていただければよい。
- ・生徒指導部の話の中で、体調不良の原因がコロナ渦でじわじわと何となく体調不良になっている生徒もいると思うので難しいと思うが、大変だねと共感するスタンスで対応していただければと思う。教育相談とも協力をしていければと思う。また、進路指導部では、教職や医療の説明会・体験会が行われており、こういった機会は高校生にとっては実際に自分の具体的な目標となるかどうかの判断材料にもなるので素晴らしい活動だと思う。授業参観では、消費者トラブルの授業で自分の意見を紙に書いて張っていたが、中学校ではタブレットに書いて先生のタブレットに送り、全体で共有をしていたのでそういうやり方もできるようになるとよい。(杉山様)
- ・各分掌の目標に対する達成度と評価について、先生方が現状を真摯に受け止められて評価をされているのが読み取れ、素晴らしいことだと思う。ぜひ、改善に向けて頑張ってもらいたい。授業参観では、午後からの授業で眠くなるものだが、生徒の学習しようという意欲がみられて素晴らしかった。
- ・授業参観において、先生が黒板に書いて生徒が映すという従来の授業スタイルから、ICTを利用することで生徒はいろんな情報を得られ先生は黒板に書く労力と時間を省き、より効率の良い授業スタイルになりとても良いと思う。
- ・教室が温かくて安心した。リモートできる環境がありコロナ渦に対応できている。ホワイトボードも見やすい。消費者教育の授業では、グループで学習しており授業形態も変化していることを感じられた。
- ・自己評価について、教務部では、先生方の工夫によって配信などもされており良かった。業務量の低減の達成度が2ということについては、先生方が頑張っておられるということでありありがたいと感じるが、やはり大変だと思うので何とかして減らしていただけたらと思う。生徒指導部では、遅刻の生徒一人一人の話を聞くのは難しいとは思いますが一人でも学校に来られなくなる生徒が減ればと思う。進路指導部では、インターンシップなどの体験や経験ができるのは必要なことだと思うのでありがたい。授業参観では、生徒が良く集中して受けており日頃の先生方の指導の成果だと思う、親としては一番心配するところなので続けていただければと思う。
- ・コロナ渦で学校の意義が問われている。学校行事などを工夫して行うことで帰属意識を高める努力をされている。そうなってくると、本来の学校目標に対して先生方には、生徒が社会の中でどう生かされるのかということを見据えながら学力をいかにしてつけさせていくのが社会で求められることになる。進路指導部のキャリア教育は、具体的な職業の教育と探究活動の両輪で力をつけさせており素晴らしいと思う。教務部の自己評価において、探究する姿勢の割合が増えており、この成果が出ているということだと思う。ただ、先生方の負担は増えるので働き方の改善も必要であるとともに、生徒も両方を頑張るとなると疲れてくることも考えられるので、そういった面でのケアも考えていただければと思う。